

第38回
北九州大腿骨近位部骨折
地域連携パス協議会

2023年9月30日

北九州大腿骨近位部骨折地域連携パス協議会事務局
産業医科大学 リハビリテーション部
村上 武史

本日の議題

1. 地域連携パス北九州標準モデル利用状況
2. 連携パスシートへの追加項目の検討
-改訂版5回立ち上がり試験の導入-
3. その他

本日の議題

1. 地域連携パス北九州標準モデル利用状況
2. 連携パスシートへの追加項目の検討
-改訂版5回立ち上がり試験の導入-
3. その他

大腿骨近位部骨折地域連携パス 集計結果

全受理データ

(2011年8月～2023年8月30日)

地域連携パスの利用状況

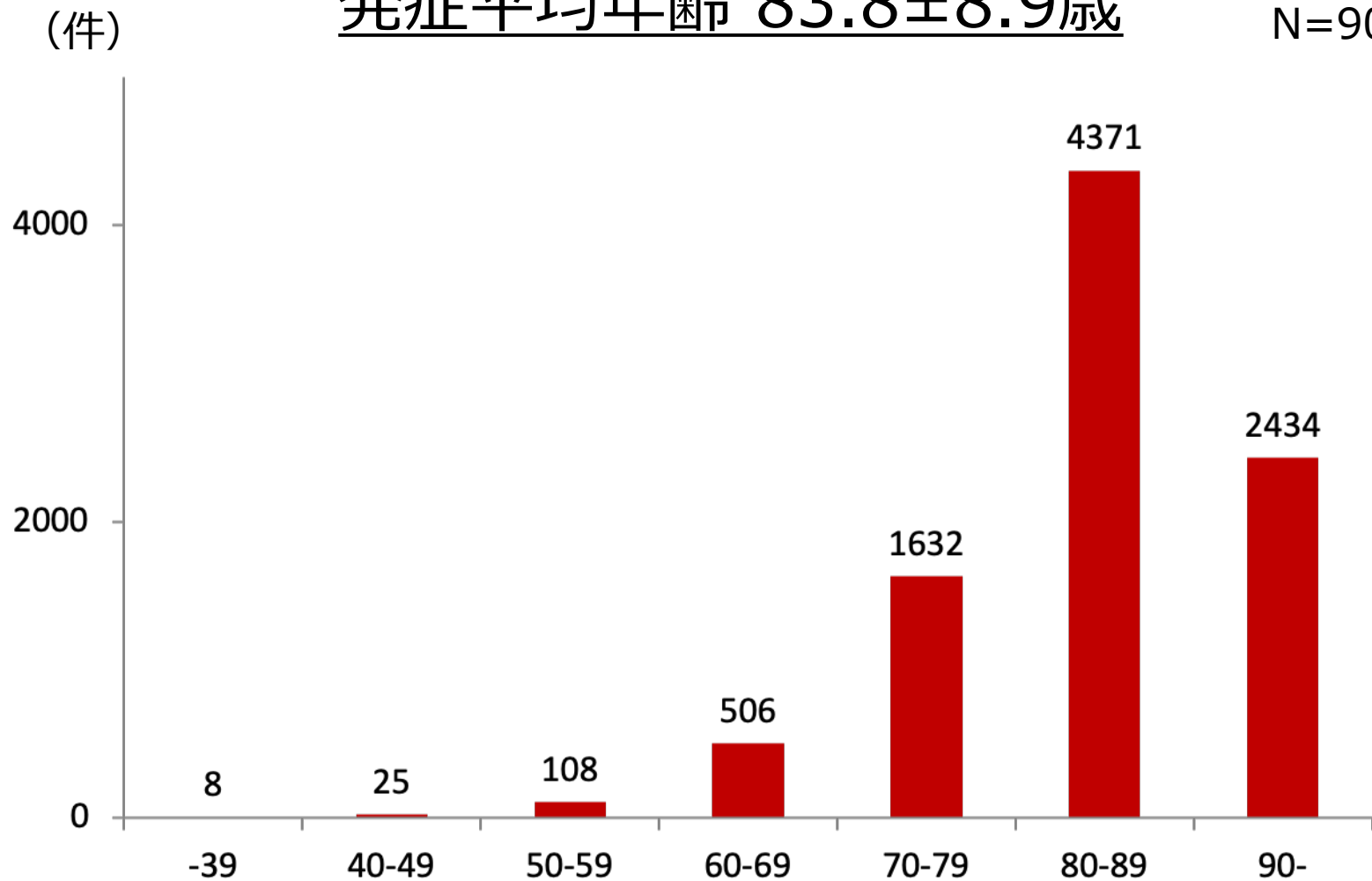
2023.6.3～2023.8.30までの約3カ月間

- 急性期医療機関のパス利用状況
 - 事務局へ送信された件数・・・**192件**
 - 合計9099件(受理6274件＋未送信2825件)
- 回復期等連携医療機関のパス利用状況
 - 事務局へ送信された件数・・・**168件**
 - 合計9099件(受理7381件＋未送信1718件)
- 急性期医療機関と回復期等連携医療機関の両施設の利用状況
 - 事務局へ送信された件数・・・**127件**
 - 合計**4557件**

年代別利用状況

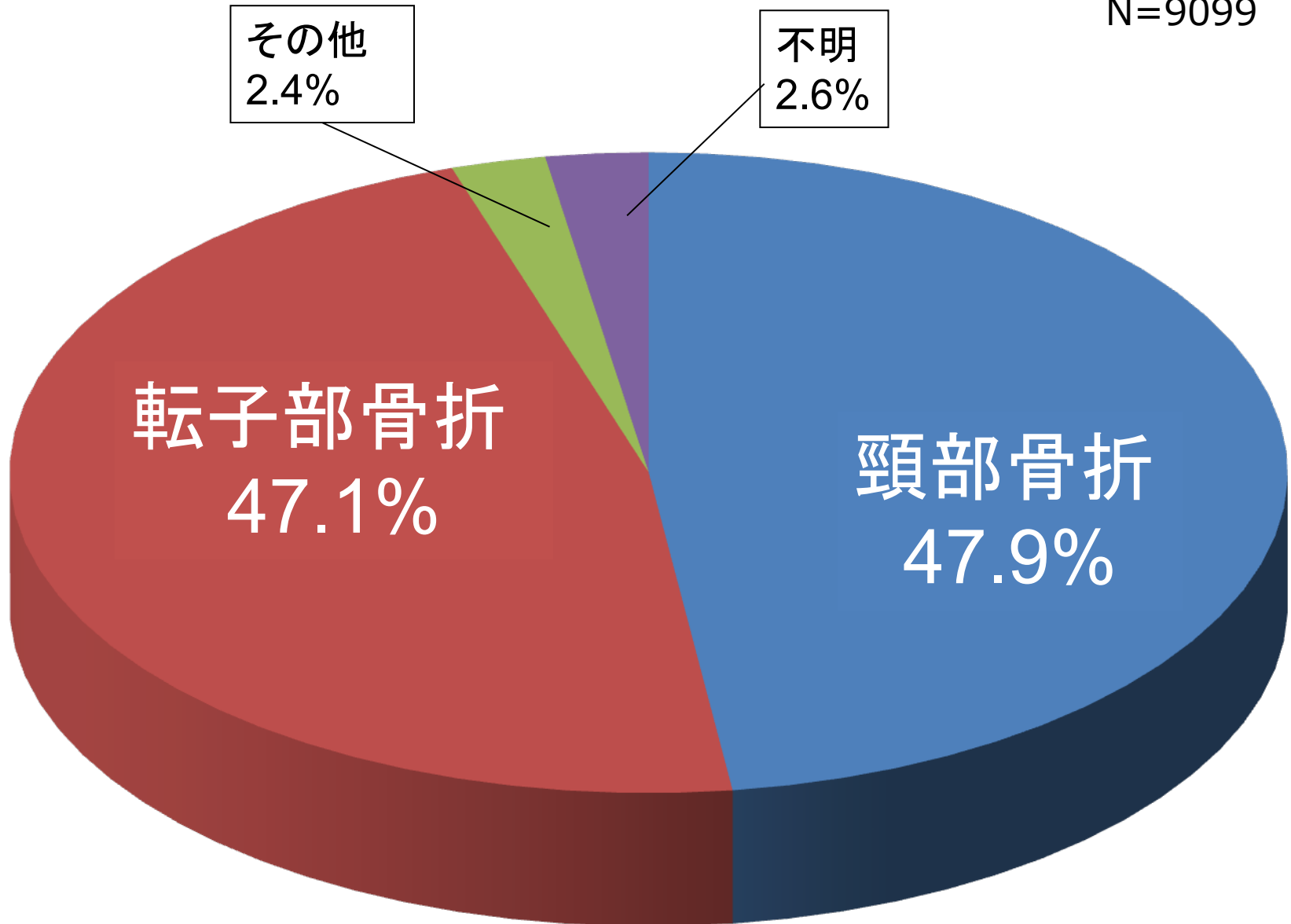
発症平均年齢 83.8±8.9歳

N=9084

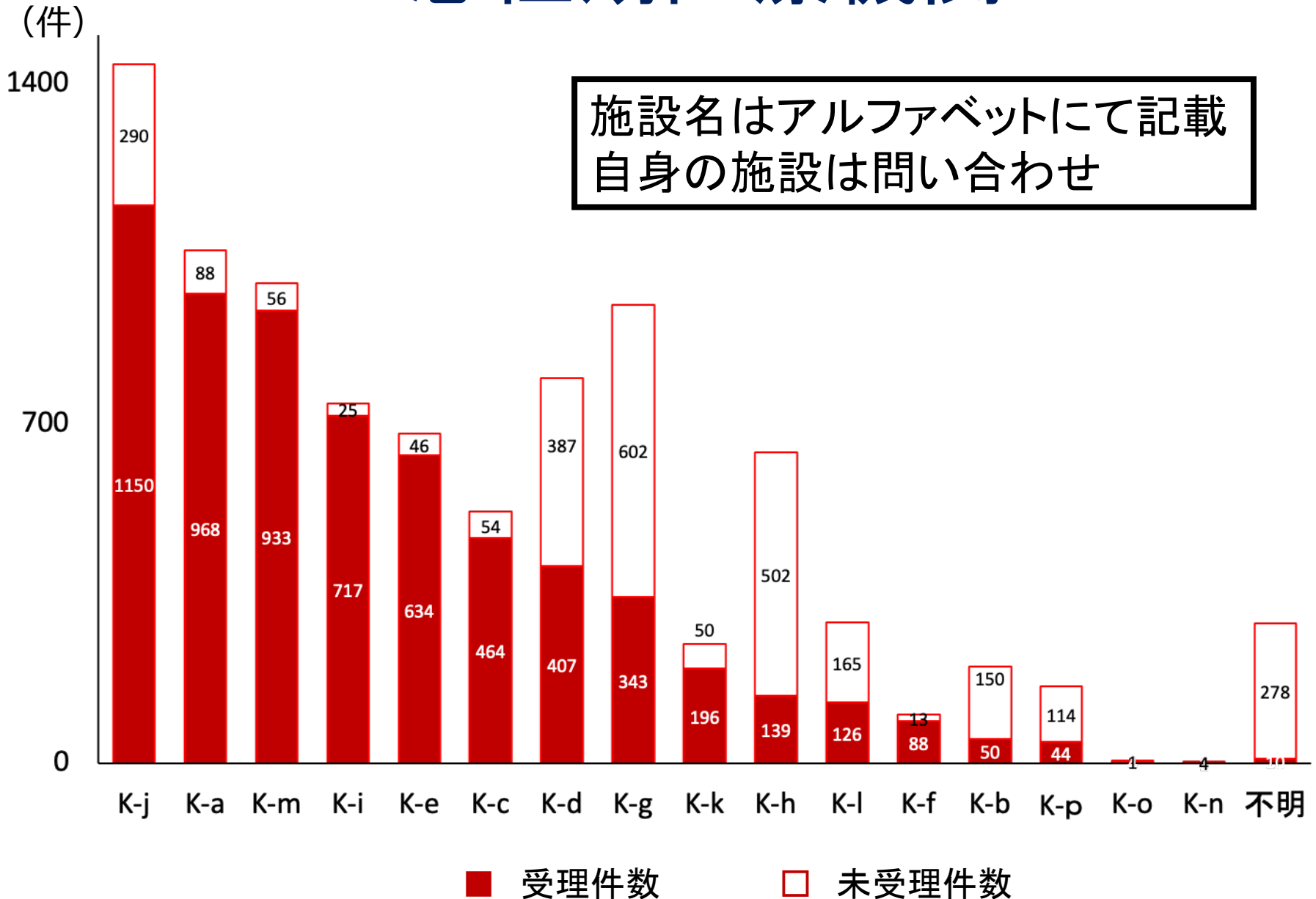


骨折型別発症割合

N=9099

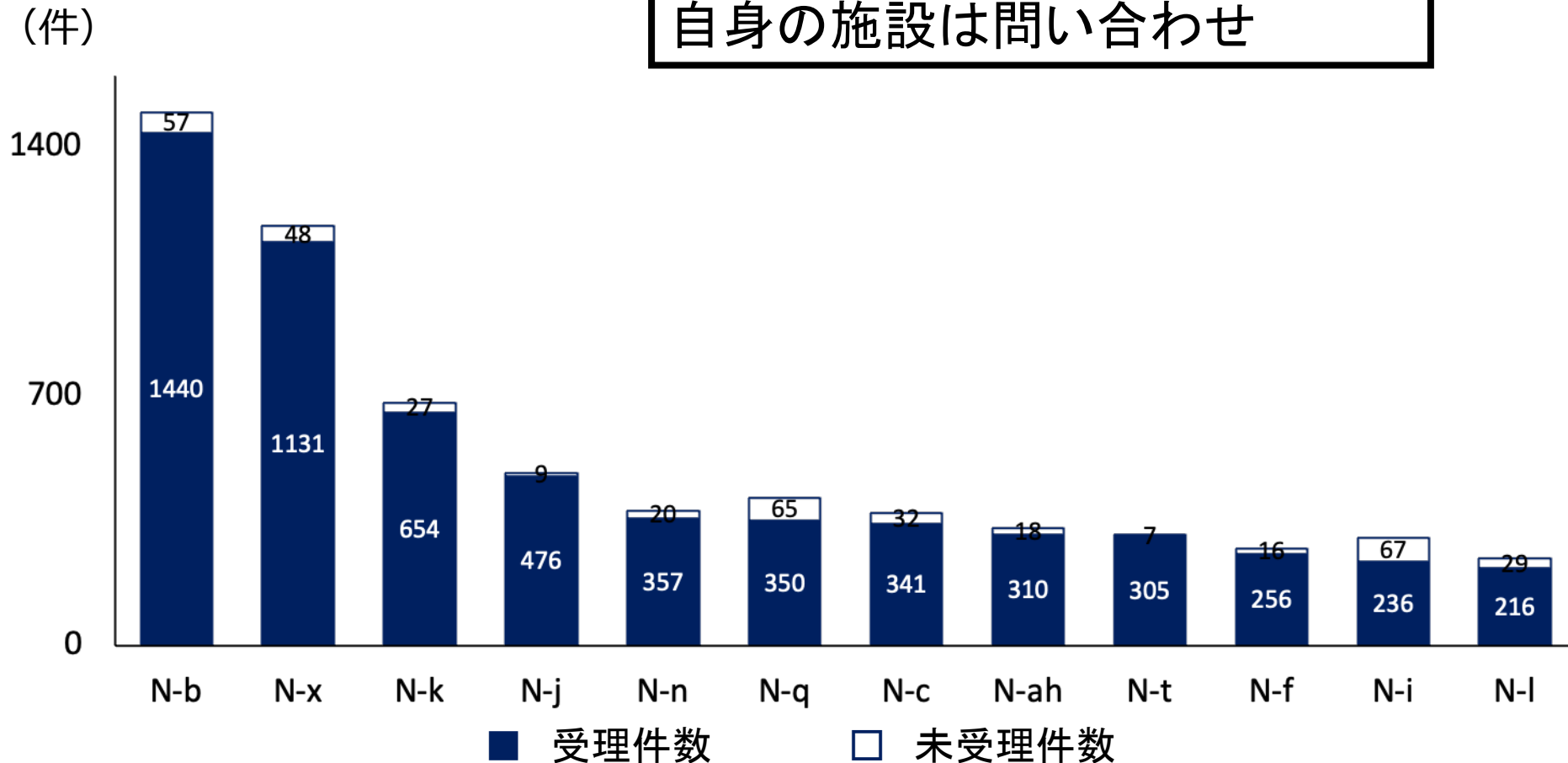


急性期医療機関



回復期等連携医療機関①

施設名はアルファベットにて記載
自身の施設は問い合わせ

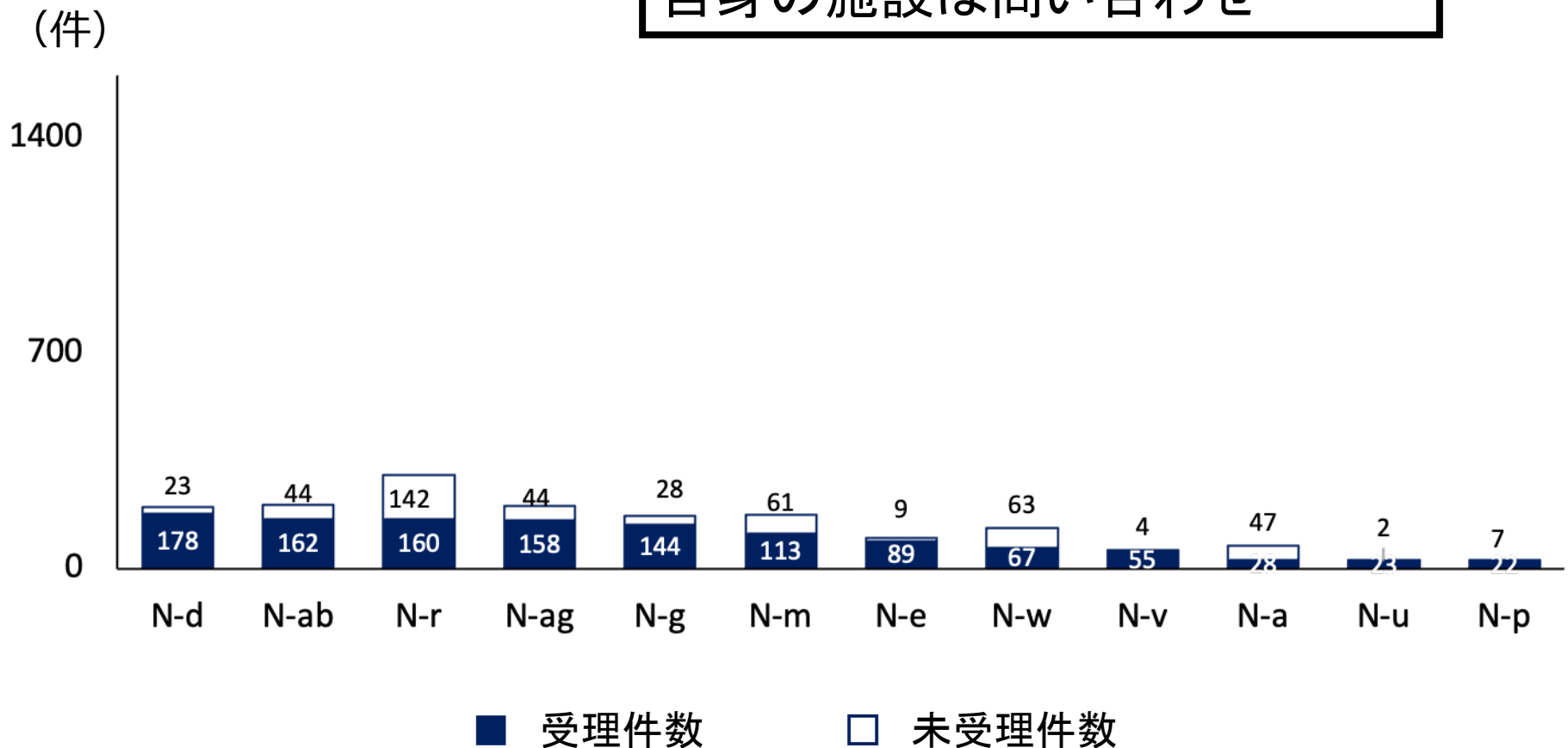


* 現在入院中の可能性があるため、受案件数が低い場合あり

* 20件以上受理した施設

回復期等連携医療機関②

施設名はアルファベットにて記載
自身の施設は問い合わせ



* 現在入院中の可能性があるため、受案件数が低い場合あり

* 20件以上受理した施設

本日の議題

1. 地域連携パス北九州標準モデル利用状況
2. 連携パスシートへの追加項目の検討
-改訂版5回立ち上がり試験の導入-
3. その他

追加項目検討の目的

北九州大腿骨近位部骨折地域連携パスシートは、多くの施設に導入頂き、急性期、回復期、生活期における患者の状況把握において大変重要な役割を示す

しかし、身体機能を示す一貫した評価指標の導入といった点では、課題を残す

急性期から評価可能となる、5TTS改訂版の導入を検討

中間解析の結果(信頼性及び妥当性)

検者内信頼性: ICC 0.968

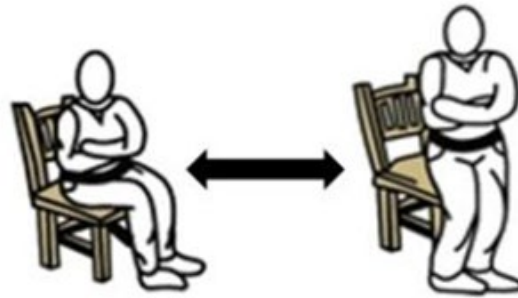
検者間信頼性: ICC 0.980

ともに高い信頼性

改訂版5CSと各項目との関連

項目		相関係数	P値
年齢(歳)		0.362	0.153
下肢筋力(HHD)	術側	-0.495	0.043
	非術側	-0.703	0.002
握力(kg)	術側	-0.400	0.111
	非術側	-0.480	0.051
退院時BI(点)		-0.458	0.064
HDS-R(点)		-0.584	0.014
動作時痛(NRS)		0.170	0.515

5回の立ち上がり試験改訂版測定方法



5回の立ち上がり試験
(改訂版は上肢支持を利用)

測定環境 椅子は座面の高さが43～45cmに調整
手すりや平行棒等の物的介助の使用は許可

測定 ストップウォッチを用い、測定のタイミングは
『セラピストが声掛けを始めた時点から、5回目の動作終了時に
椅子に身体が触れた時点』。
各測定者が2回実施し、2回の平均値を代表値

声かけ 「できるだけ早く5回立ち座りを繰り返してください」
「手すりは用いて構いません」